

日本大学工学部

校友会報

第 57 号

平成6年3月1日

目 次

ごあいさつ(工学部長、校友会長).....	2
平成5年度第36回通常総会報告.....	3・15
第13回母校を訪ねる会報告.....	4～6
校友レポート(水谷碩之).....	7～9
校友エッセイ(佐藤満夫、八木宏純).....	10～11
若葉マークがんばり記(青木健一).....	12
同窓会・クラス会・支部総会.....	13～16
校友短信.....	17～19
キャンパスミニメモ.....	20
総会通知・事務局便り.....	20



日本大学工学部情報工学科棟

工 期 平成4年7月～平成5年10月

建 築 面 積 1,197.94㎡

建築延床面積 3,880㎡

鉄筋コンクリート造 4階1部5階建

ごあいさつ



日本大学工学部長

國分 欽智

工学部校友の皆様その後いかがお過ごしでしょうか。昨年の景気回復の期待はもろくも崩れ、円高による国際競争力の低下と雇用不安は戦後最大の不況をもたらした。日本の政治、経済、産業界には根本的な構造改革が必要になってきました。

大学も全く同様です。冬の時代は年とともにその厳しさを増し、教育、研究、管理、運営全般にわたる改革が焦眉の急務となってきました。幸い工学部は皆様のおかげで情報工学科設置による改組に成功し、その効果が着々と上がっております。昨年4月30日には情報工学科開設記念式典が盛大に挙行され、福島県のみならず、広く全国へ開設の趣旨と意義が知られるところとなりました。そして10月7日には待望の情報工学科棟が立派に竣工しました。建物は鉄筋コンクリート4階建（1部5階建）、総床面積約3800m²で、演習用計算機室、基礎実験室、研究用計算機室、各教員の研究室へは高性能のスーパーコンピュータ、ワークステーション群、計測器類が導入されました。それらはソフトウェアとハードウェアの演習及び高度な研究に、最大の威力を発揮することでしょう。1年生後期のプログラミング演習がもう少しで終わろうとしています。学生諸君は大変張り切ってコンピュータに取り組んできたと思います。他方、情報工学科の設備充実に合わせて、既設5学科のコンピュータのバージョンアップを計り、各学科の情報処理関連教科の単位増を行いました。これらによって工学部は情報処理教育重視の特色を明確にし、21世紀高度情報化社会と産業界の第一線で活躍する高度な技術者を育成してゆきたいと考えています。

今、正門を通れば、すぐ左に情報工学科棟、情報研究棟、図書館、本館の近代的校舎が整然と並び、それらは桜並木と見事に調和し、工学部はすばらしいキャンパスに変貌しました。昨年10月24日恒例の母校を訪ねる会に出席された第1回と第21回の校友153名からは、大きな歓声があがり、たくさんの激励の言葉をいただきました。全員、母校へのプライド、自信、連帯感を大いに強められたようで、帰省後に皆様から御礼の手紙をいただきましたのは大変嬉しいことでした。

皆様のお力でこの未曾有の不況が克服され、1日も早く日本と世界にすばらしい繁栄が到来することを衷心より祈念申し上げ失礼致します。



日本大学工学部校友会長

半沢 忠

平成6年の新春はいつになくおだやかな日となり、各地の神社は大勢の初詣客で賑わいましたが、会員各位におかれましては、今年一年の健康と幸福を願い今年こそはと決意を新らたにされたことと存じます。平素当会の運営などにつきまして、深いご支援と、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は政界、財界そして農政にわたって大きく揺れ動いた激動の年でありました。特に今回の平成不況は先行き不透明なだけ一層深刻なものと言えましょう。もはや、なべ底どころか、フライパンダーこんな悲鳴も聞かれます。各企業は生き残る為にリストラチャリング（事業の再構築）を実施し、対応しようとしております。その中で最も効果が上がる手段は人員削減でありますので、ますます管理職の方々にはまさしく受難の年であったと思います。

また天災による被害を受けた年でもあったかと思えます。地震と津波に襲われた奥尻島の被災地は今なお自然がもたらす恐ろしさを見せつけています。冷夏に見舞われ、収穫の喜びもなく、無念の一年をおくられた被災農家の方々と、これら一連の出来事は、私共人間に何か警告を与えているようにも思えます。

本会はまもなく年度末をむかえますが、本年度も計画通り完遂できる見通しでございます。昨年秋に第13回母校を訪ねる会を卒業後20年と40年目の方々を招待しましたところ、多数の方のご参加を得、盛会に開催することができました。特に40年目にあたる第1回ご卒業の先輩各位のご挨拶は心暖まるものを感じました。このような事業こそ本会の目的にかなったものであると意を強く致しました。一方本年早々値上げが決まった郵便料金は、本会の唯一の事業であります会報発行に影響を及ぼし、頭の痛い問題でございます。私は、いずれにいたしましても、私共に与えられた試練の時と受けとめ、役員の皆さんと共に時代に即した運営方法を構築してゆかねばならないと思っております。幸い、私共は四学部連絡協議会（理工、生産、薬学、工学部）と言う組織をもって、定期的に協議する場をもっておりますのでその中で進むべき道程も話し合っております。今後ともご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら校友各位の益々のご精進とご活躍をお祈り申し上げます。

（工業化学科6回卒 パラマウント硝子工業㈱）

平成5年度第36回通常総会報告

第36回通常総会は、日本大学郡山研修会館において平成5年4月17日（土）午後2時より開催された。

総会は、橋本事務局長（建10回）の司会で、最初に佐藤副会長（土6回）の開会のことばで始められた。次いで、半沢会長（化6回）より要旨次のようなご挨拶があった。

校友会活動は、会員の皆様のご支援やご協力なくしては持続し発展することはできません。年ごとに、活発な活動が出来ますことは感謝にたえません。

平成4年度の「母校を訪ねる会」には卒業後およそ40年目に当たる専門部1、2回卒業生の方々をもご招待申し上げたところ、大変好評で有意義な事業であると評価されました。今後とも、20年目、40年目の校友の方々を主として訪ねる会を開催したい。平成4年度版の会員総合名簿は、かねてから確度の高さに信頼されているが、購入希望者は約2400名の多きに達している。工学部には旧来5学科あったが、平成5年度より、情報工学科が増設されて6学科体制となり、規模においても内容においても一段と発展した、校友会も、母校の隆盛にいささかでも寄与すべく、更に努力して参りたい。

そして、東海支部の平野卓支部長（土3回）が議長に選出され就任した。早速議事録署名人に久野清氏（建22回）と滝田賢治氏（土18回）の2名を、さらに書記に加藤木研氏（電12回）と渡澤正典氏（建14回）の2名が提案され、それぞれ承認されて議事に入った。

（15頁へ続く）

平成4年度一般会計収支決算書

歳入		単位 円 △……減			
款項	種 目	予算額	決算額	比較増減	付記
会費	1 終身会費	9,500,000	10,150,000	650,000	
	2 入会金	11,000,000	12,150,000	1,150,000	
	計	20,500,000	22,300,000	1,800,000	
繰越金	3 前年度繰越金	8,174,778	8,174,778	0	
	計	8,174,778	8,174,778	0	
繰入金	4 運用財産より繰入金	0	0	0	
	計	0	0	0	
雑入	5 預金利子	10,000	1,097,684	1,087,684	
	6 負担金	0	0	0	
	7 名簿代金	0	0	0	
	8 雑収入	15,222	310,000	294,778	
	計	25,222	1,407,684	1,382,462	
合 計		28,700,000	31,882,462	3,182,462	

歳出

款項	種 目	予算額	予算現額	決算額	比較増減	付記
事務費	1 給料手当	4,350,000	4,350,000	4,248,507	△101,493	
	2 保険料	400,000	400,000	395,851	△4,149	
	3 交通費	700,000	700,000	572,000	△128,000	
	4 旅費	50,000	50,000	31,680	△18,320	
	5 交際費	600,000	600,000	450,000	△150,000	
	6 需用費	300,000	300,000	256,878	△43,122	

歳出の続き

款項	種 目	予算額	予算現額	決算額	比較増減	付記
事務費	7 備品費	180,000	180,000	174,894	△5,106	
	8 印刷製本費	320,000	320,000	140,698	△179,302	
	9 通信運搬費	450,000	450,000	263,087	△186,913	
	10 修繕維持費	10,000	10,000	0	△10,000	
	11 光熱水費	40,000	40,000	30,000	△10,000	
	12 分担金	400,000	400,000	400,000	0	
	13 雑費	170,000	170,000	95,450	△74,550	
	計	7,970,000	7,970,000	7,059,045	△910,955	
事業費	14 組織対策費	1,000,000	1,000,000	635,540	△364,460	
	15 会報発行費	4,000,000	4,000,000	3,883,359	△116,641	
	16 会員管理費	2,450,000	2,616,313	2,616,313	0	
	17 名簿作成費	500,000	500,000	360,539	△139,461	
	18 下宿対策費	10,000	10,000	8,282	△1,718	
	19 図書供与費	300,000	300,000	300,000	0	
	20 式典費	2,000,000	2,000,000	1,912,528	△87,472	
	21 母校訪問費	320,000	344,095	344,095	0	
	22 負担補助費	600,000	600,000	550,000	△50,000	
	計	11,180,000	11,370,408	10,610,656	△759,752	
会議費	23 総会費	1,500,000	1,500,000	1,028,513	△471,487	
	24 役員会費	250,000	250,000	197,500	△52,500	
	25 連絡協議会費	300,000	300,000	0	△300,000	
	26 旅費	900,000	900,000	809,590	△90,410	
	計	2,950,000	2,950,000	2,035,603	△914,397	
雑出金	27 職員退職給付積立金 特別会計繰出金	300,000	300,000	167,784	△132,216	
	計	300,000	300,000	167,784	△132,216	
積立金	28 積立金	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0	
	計	5,000,000	5,000,000	5,000,000	0	
予備費	29 予備費	1,300,000	1,109,592	0	△1,109,592	
	計	1,300,000	1,109,592	0	△1,109,592	
合 計		28,700,000	28,700,000	24,873,088	△3,826,912	

歳入額 31,882,462円

歳出額 24,873,088円

差引残額 7,009,374円を翌年度へ繰越しとする。

財産の状況（平成5年3月31日現在） 単位 円

一般会計	特別会計	引当財産	運用財産	合 計
7,009,374	6,872,997	3,420,923	22,381,718	39,685,012

平成4年度平成4年版会員総合名簿発行事業特別会計収支決算書

歳入		単位 円 △……減			
款項	種 目	予算額	決算額	比較増減	付記
繰越金	1 前年度繰越金	905,913	905,913	0	
	計	905,913	905,913	0	
繰入金	2 運用財産より繰入金	3,500,000	3,500,000	0	
	計	3,500,000	3,500,000	0	
名簿代金	3 名簿代金	2,000,000	8,185,000	6,185,000	
	計	2,000,000	8,185,000	6,185,000	
雑入	4 広告料金	250,000	810,000	560,000	
	5 雑収入	4,087	44,349	40,262	
	計	254,087	854,349	600,262	
合 計		6,660,000	13,445,262	6,785,262	

歳出

款項	種 目	予算額	予算現額	決算額	比較増減	付記
事業費	1 賃金	20,000	25,545	25,545	0	
	2 消耗品費	450,000	216,917	188,280	△28,637	
	3 印刷製本費	4,500,000	4,100,000	4,062,732	△37,268	
	4 通信運搬費	1,400,000	1,699,725	1,699,725	0	
	5 委託料	100,000	583,083	583,083	0	
	6 雑費	40,000	34,455	12,900	△21,555	
	計	6,510,000	6,659,725	6,572,265	△87,460	
予備費	7 予備費	150,000	275	0	△275	
	計	150,000	275	0	△275	
合 計		6,660,000	6,660,000	6,572,265	△87,735	

歳入額 13,445,262円

歳出額 6,572,265円

差引残額 6,872,997円を翌年度一般会計へ繰入れるものとする。

第13回「母校を訪ねる会」

平成4年度から卒業後、20年と40年を招待



平成5年10月24日（日）、第13回母校を訪ねる会が催された。今回の対象者は第1回卒業生（昭和28年3月卒）と第21回卒業生（昭和48年3月卒）の方々を招待して行なわれた。第1回生9名と第21回生144名の出席があり、今までの累計は1225名となった。今回は、新設の情報工学科が加わり、母校の進展に新たな気持ちで参加された卒業生も多かった。

母校を訪ねる会に出席して

大平達郎

新幹線の車窓から母校の発展振りを眺めてきましたが、このたび母校を訪ねてみて全く様子が一変しているのには驚きました。国分工学部長のお話でも時代が激変しているそれを先取りした教育の実施をしなければならぬ主旨のお話があり母校の社会的評価が高くなってきているのは先生方の熱意と努力が原点とおもいました。さて母校を訪ねた収穫（私ばかりしらなかったのかも？）はあのガンタラ橋（昭和25年当時の安積永盛駅から母校までの通学路中のつり橋の名）つり橋とは名ばかりのロープに板をからませただけ（今ではとても許可になりません）その橋板の上を下駄ばきで渡ったものでした。あのなつかしい思い出は今でも鮮明に脳裏に焼きついてはなれません。

訪ねる会の帰りに正門からタクシーを拾い車中にこのつり橋の話を運転手さん（柳沼久さん）から聞くこ

とができました。いわく、あの橋の御守りを笹川、徳定、御代田の各方部の家庭から1合の米を出しあい松本さんとゆう方をお願いしていたとのこと、今更ながら感謝せずにはられませんでした。

また川の水量が増すと兩岸の地区の消防団がおたがいに橋板の1/2までの距離の橋板を外し流出防止に務めていたとのこと、人生いきるからには自分の見えない処で沢山の人々にお世話になって4年間勉強できた事を強く感じました。

人が常に面倒を見てる設備はなにか人と対話をする心がでる様に思えます。発電設備の保守運転を数十年の経験を持つ私はこの橋の柔らかさ、やさしさがわかったような気がしました。

今はすでに消え去った幻のつり橋に感謝し帰途につきました。

母校の発展と強く、逞しく、やさしさのある我が後輩が続出することを願い筆をおきます。

ありがとうございました。

（電気工学科1回卒）

「平成5年度母校を訪ねる会」に参加して

杉崎郡治

工学部土木工学科第21回卒業生同級会が「平成5年度母校を訪ねる会」の前日10月23日（土）にあいにくの小雨の中、郡山駅前のホテルブリシード郡山にて開

催されました。

当日は、恩師の木村喜代治先生、杉内祥泰先生、浪越勇先生、西村孝先生、中村玄正先生、原忠勝先生、長林久夫先生、佐藤吉新先輩(校友会副会長)に出席をいただき我々同級生は、北は青森県、南は山口県より59名という多数が出席し大変盛大に行われました。

私は13年ぶりの郡山であり東北新幹線に乗るのも初めてで東京よりの時間が1時間半と以前の半分で済みまた郡山駅の変わり方には驚きを覚えました。

会では卒業以来再会する者が多く「髪形の変った者」「顔つきの変わった者」等一日でわからない人又20年たっても一向に変わっていない人と、なつかしい学生時代の話に花咲かせそれぞれ各方面で活躍中の近況報告と夜の更けるのも忘れ語り合い話が弾みました。



会の最後に佐久間君(元応援団々長)の音頭による日本大学校歌を斉唱し会を締めくくりました。

翌日は、「平成5年度母校を訪ねる会」に出席し、本館前にてブラスバンドを聞き、浪越先生の案内で本館内を見学し、北桜祭の行われている校内を一周し、我が青春時代の思い出に浸りました。

ただ一つ前本館に有った大時計が無くなっていた事が残念でした。

最後に今回の会を企画した校友会の方々及び成田君をはじめ同級会の幹事の方々に対し深く感謝を申し上げます。

(土木工学科21回卒 太陽酸素(株)岡山営業所)

「母校を訪ねる会」に参加しての思い出紀行

南 明 人

「こおりやまーこおりやまー」新幹線より降りると、昔なつかしい福島なまりの声が聞こえてきた。20年ぶりの郡山である。

友人達(西島、二瓶の両君)と改札口を出て見ると20年前の面影が浮かんできた。正面にはパチンコ店、中央には開成山公園までの直線道路、そして福島交通のバスターミナル。街並が昔とはやや違うが、やはり四年間も過ごした第2のふるさと、郡山である。西島二瓶両君とホテルまで駅前通りを遊歩した。「おい南、

ここは昔パチンコ屋ではなかったか!」「ここは丸光だったよな」いろいろと語り合ううちに何か学生時代に還り遊歩しているような気分である。ホテルに入ると宝鏡君が待っていた。

7時からビューホテルで建築学科の同窓会が予定されていた。皆でビューホテルに行くと、「日大建築学科同窓会々場3階雲水峰の間」と書いてあった。エレベーターで3階まで上がるとそこは懐かしい顔、顔でいっぱいであった。「よう鈴木君元気だったかい」「よう松本君元気だったかね」と20年来に会う友々。会場入口ロビーでは、皆久し振りの再会を楽しんでいた。いよいよ開宴、来賓挨拶として谷川先生が立たれた。先生の話を聞いているうちに八代君が「おい昔の先生の講義聞いているみたいだな」と言った。まことにその通りだと思った。先生の「フランクロイドライト」の講義が思い出された。宴たけなわになるとここのテーブルでワイワイ、あそこでワイワイと20年来の再会を瞬時を惜しむように語り合った。出席者約60名のもと盛会のうちに終わると近くに2次会の会場が予約してあると言う。皆でぞろぞろ北国の肌寒い夜の街を歩いて会場についた。そこで飲んでいっているうちに若き日の頃を思い出し、昔の馴染みの酒場に行きたくなった。そおーっと会場を抜け出すと近くの第2マーケットと呼ばれる所に言った。しかしそこは昔の面影は全くなくビルが建っていた。そこで私は近くの焼鳥屋さんの暖簾をくぐった。「おばさん第2マーケットはどうなったのですか」と聞くと7~8年前火事で焼けてなくなったとの事。学生時代先輩に連れられおしえてもらった店「あすなろ」のことを聞いてもわからないという。帰る間際に「マイアミ」というスナックが駅前にあったのですが知りませんかと聞くと今も営業しているという。早速千鳥足で駅前まで辿りつくとい目の前には赤い字で「マイアミ」と書いてある看板があった。昔そのままの看板である。階段を上がっていくとそこには「マイアミ」と書いた古くさい木製の重厚な扉があった。「ギイー」と扉を開けるとそこは20年前と全く同じ光景。一瞬タイムスリップしたようだった。「いらっしゃい」の懐かしい声、カウンターの中には20年前と同じ顔(酒に酔っていたので)「憶えていますか」と尋ねるとふと考えるしぐさ。「大見さんや三野さん達と昔よく来ていたんだけど」と言う。「あ、日大の南さんね」それからは思い出話に花が咲いたこと云うまでもない。こうして郡山の夜は更けていった。

翌朝、二日酔いの顔で一同朝食をとる。10時30分頃タクシーで学校に向かった。これ又20年ぶりの母校である。正門よりゆっくりと歩いて行く。左側には新しい建物(情報科棟)正面には新しい本館、桜並木の歩道はインターロッキング貼、本館前ではドリル演奏をしていた。在学時代と比べたら雲泥の差である。11時30分より全員による記念撮影、そして第13回「母校を訪



ねる会」の始まり。国分学部長の挨拶に始まり各学科の同期生や校友関係者との歓談、日大校歌を謳い盛大に会を終えた。閉会後誰となく学食に行こうという声が出た。当日は学園祭の真ただなか、学生食堂でメニューを見る。「おい、カレーは俺達の頃は60円だったよな。今130円か安いなー」と言いながら定食のチケットを自動販売機で買いセルフサービスの窓口にあの頃もうまいと思ったが今でもうまい定食だった。食事の後校内の散策、卒研で毎日使った実験棟、講義を受けた教室等、思い出を語り合っているうちに帰りの新幹線の時刻が近づいてきた。正門を出て阿武隈川の堤防を歩きながら遠くの遥か連なる山々を眺め、20年後の再会を約束して郡山をあとにした。

(建築学科21回卒 南建設)

「母校を訪ねる会」に参加して

高原 一 啓

平成5年度の「母校を訪ねる会」は第1回卒の先輩方と、第21回卒の校友が対象でありました。

我々21回生が入学した年は、大学紛争も漸く鎮静化して日も浅く管理棟の窓には紛争の傷跡が残る昭和44年の4月の末でした。1カ月遅れの入学式は我々21回生だけであります。このような状況下で入学した校友も、4年間の大学生活を送り昭和48年3月に卒業して今年で20年が経ちました。

「母校を訪ねる会の前夜は、ぜひ同級会を開いてほしい」との声が我々地元にいる級友へ寄せられ、以前から同級会を開かねばと考えていた者の一人としては、諸先輩に習って訪ねる会に相乗りする形で実現できれば、参加者もより多くなると期待していました。そして我々の願いが通じてか、同級会当日は先生方では、現役の菅野宗和先生、現在は非常勤講師をされている一色忠夫先生、そして1年当時の担任で現在は香川医科大学に勤務されている西村祖一先生御夫妻、そして校友会からは半沢会長、同級生においては北は山形県から南は鹿児島県まで、総勢49名の出席者で荒池公園隣にある日本大学郡山研修会館において行われました。会場をこの研修会館に決めたのも、学生当時この会館

の東隣りにあった「金山(かなやま)温泉」で毎年、夏と冬に2回ずつ、特に冬はストーブ持参でクラスコンパをやった思い出の場所になっていたからです。

同級会では発起人代表(私)の挨拶、来賓代表として一色先生の挨拶、菅野先生の乾杯、そして歓談へと続き盛り上がりを見せました。同級生の中には乾杯が終わるやいなや懐かしい級友と談笑に移り、名刺交換や近況報告で20年間の空白を埋めるがごときでありました。宴の中では学生時代コンパでよく聞いた広島の対川博文君の軍歌、そして極めつきは西村先生の「たにし殿」の歌が出て最高潮に達し、最後には大宮の城座隆夫君の音頭で全員で校歌を歌い一次会の散会とし、各級友同志思いの二次会へと流れていきました。別れ際には、「次回は余りあいだをおかずに行こう。」との声に幹事一任となりました。



翌日は第13回の「母校を訪ねる会」に出席して、在学当時おられた先生方、そして校友に会えて歓談できたことを感謝いたします。

学部長、各先生方の挨拶の中で工学部の近況を聞くにつけ、又キャンパス内の移り変わりを見るにつけ、立派になったものだ改めて感心した次第であります。懇親会も盛会の内にお開きとなり、級友ともまたの再会を誓い一人二人と帰途につく頃には、私の身体の中で幹事の仕事は無事終えたと実感しました。

最後にこの会を催して戴いた学部並びに校友会に対して感謝申し上げると共に、皆様の健康とより一層の活躍をお祈り致します。

(機械工学科21回卒 福島県土木部)

第14回母校を訪ねる会

日 時 平成6年10月23日(日)(予定)
対 象 第2回卒業生(昭和29年3月卒業)
第22回卒業生(昭和49年3月卒業)
前日同級会など開催され多数出席されるようお待ちいたします。

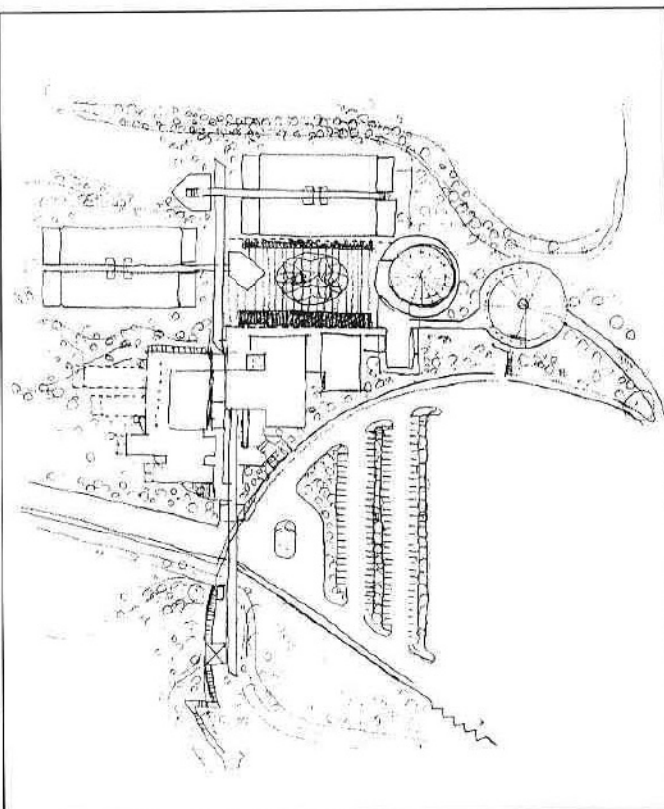
日本建築学会作品賞を受賞して

水谷 碩之



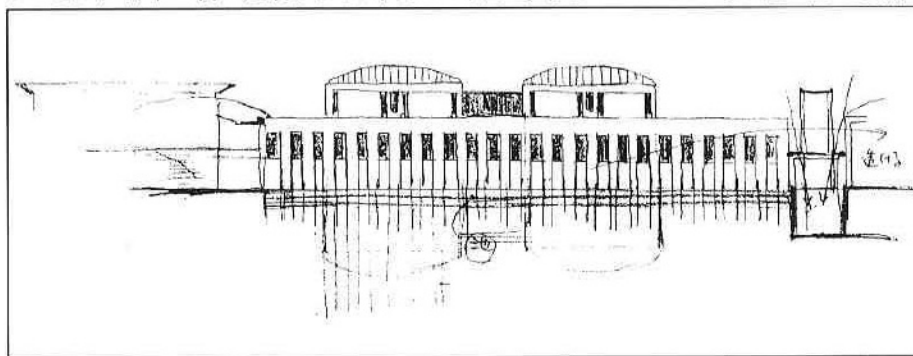
今回、1993年度日本建築学会作品賞を受賞しました「NTSシステム総合研究所」は、コンピューターの独立会社である。

日本タイムシェア株式会社が、21世紀に向けて、知的作業環境は、いかにあるべきかを考えて計画した郊外型オフィスです。日本ではあまり例がありませんが、欧米では10年以上前からオフィス環境をよくする目的で造られたすぐれた建物がたくさんあります。オフィス環境をよくすることで、その企業のアイデンティティを示し“オフィスは企業文化を象徴する”とも言われています。郊外型オフィスの目的は、都会では享受できない自然を含むオフィス環境を造ることにあります。それ故に当然建物と自然の関係が大切な要素になります。今回の計画を進めるにあたり、種々の欧米の郊外型オフィスを調査、研究いたしました。そこで解りましたことは、自然に対する考え方が、日本人と欧米の人達では違うことが、建物の全体計画から空間構成までに影響しているのではないかと言うことです。日本の古い寺院や桂離宮をみますと、日本の建築には自然と同化し共生する発想があります。今回の計画では、日本人自身が忘れていている自然に対する感性を自然と建物の関係において見直したいと考えました。建物の配置を目的別、用途別に分散配置してそれらを経路で継ぐ構成を提案しています。経路の設定には、日本建築の“ずれ”“雁行”“透し”の考えを取り入れ、歩くことによる空間の移り変わりで人の感性を刺激させ、リフレッシュされる効果を期待しています。IBMの研究でも自然の緑を観ることは単に目がやすまるだけではなく、精神的にも肉体的にも安定し、リフレッシュされることが解っています。この経路を演出することは、日本の古い建物にはたくさんの例がありま



す。桂離宮は、建物が雁行してるので有名ですし、廊下と縁側が建物の雁行に合わせて庭に面していますので、歩く人は庭を一方向からだけでなく、色々な方向から観ることになります。又その庭も人が回遊することを考えてつくられていますので、その効果が倍増されます。東山文化の粋を集めたといわれる銀閣寺のアプローチは、有名な銀砂灘の砂盛りの庭のある本堂にたどり着くまでに、大刈込の道を折れ曲がりながら門を3つぐり、そして四方山に囲まれた明るい砂盛りのある庭に出る心憎い演出がされています。茶室では、

独立して建っている場合はもちろんですが、本屋に付属している場合にも、一度庭に出て庭の露地と言われるアプローチを通り、出入口としては極端にちぢめられた“にじり口”から入るという、茶の湯という儀式的なされる非日常空間へ人を導く演出がなされています。“にじる”姿勢は、人は四這になりました



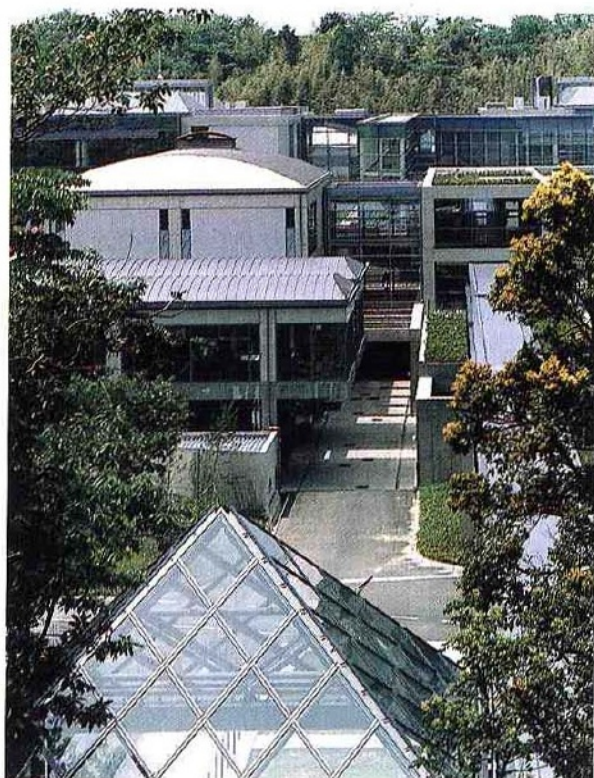


く無防備になりますので心理的に大きな圧迫感があり、このときそれまで感じていた外部の世界が消され、内部の世界へ移り変わる結節点としてすばらしい構成になっています。これらの例から解りますように、日本建築が生んだ深奥性の表現方式は、西欧に発達した中心軸に対称で、透視図法的な空間構成とは大きく異なる独自の手法であると思います。これらのことを参考にして今回の計画では、人の通る廊下となる経路を、色々な構成にしました。全面ガラス張りですーぱーブリッジと名前をつけた2階建ての吹抜空間のある研究棟を結ぶ廊下や、中庭に面した壁が1メートルおきに窓になっている通路、約50メートルスパンで構内道路の上をフィーデンディール構造の鉄骨で橋状に架けた廊下等、その場所に合わせた経路空間を設定して目的別、用途別に分散した建物を結ぶ配置計画にしてあります。又その経路の結節点は、日本建築の雁行や、にじり口の手法に学びながら「間」の空間を設けて人の行動から起きるであろう心理的な効果を考えた構成になっています。欧米の郊外型オフィスの利点としてかならず取り上げられる項目に、door to doorの発想があります。自宅のガレージから車に乗り、オフィスの建物の下の駐車場（ほとんどの建物が1階のピロティか地下又は屋上に駐車場を設けています）のそれも自分の働く場所に出来るだけ近い所に車をとめ、緑が観える個室化されたオフィスで、自分の仕事に関係する人達だけとコミュニケーションをとりながら働くことが快適であるとされています。それ故経路は、合理的になるべく短く結ばれるのが望ましい配置計画であると考えられています。一方、日本のオフィスの執務形態は欧米のような個室は働く人達の連帯感が薄くなるとしてほとんど採用されていません。大きな事務室をワークステーションとしてパーティションで区割りする方法がやっと取り入れ始めたところで、まだ大

きなワンルームで対面的に机を並べたオフィスが大半だと思います。このように建築はその建物を使う人達のさまざまな生活方や就務形態を考えて造らなくてはなりませんし、環境や風土、習慣を含めて計画する必要があります。短絡的に欧米の表層部分だけを真似してはいけないと思います。

社会の状況は、ますます国際化され情報通信の発達で世界中の出来事や情報を即時に知ることが出来る時代になり、建築の世界でも、国際的に通用するデザインや考え方が重要なこととなってきています。インターナショナルな要素も必要ですが、今までのように欧米

の考えを追従していたのでは、間に合いません。又一方で一昨年までのバブル経済により日本の建築は人が住み、その時代と文化を表わすと言う本質的な部分が忘れられ、物や商品として扱われた結果、ポストモダニズムとも違う過剰なデザインや意味もなく石や金属が使われた建築が横行していました。そのような状況のなかで、仕上材はコンクリートと木、タイル、ガラスという素材を中心に、建築の構成は欧米のまねでなく、日本的な建築構成で計画した建物が認められた事を、本当にうれしく思っています。



このNTSシステム研究所は私が大学を卒業して、丁度30年目に竣工した建物で、今日まで周りの環境に調和し、そして建物の持ち主にはもちろんですが、その建物に住み生活し又使う人達にも愛される建物を造りたいと、がんばってきた努力と情熱が評価されたことを喜んでおります。今回の受賞は、作品に直接協力していただいた方はもとより、学生時代、"建築の何たるか"を教えていただいた先生方や、今まで私に色々な面での御指導と御協力をしていただいた方々のお陰と深く感謝いたしております。

1962年に大学を卒業して、坂倉準三建築研究所に入所し、坂倉先生が亡くなるまで約10年間坂倉先生のもとで勉強出来たことは、私にとってほんとうに幸せなことでした。60年代は、モダニズム建築の最盛期で、機能と形態の関係が大切なことを、坂倉先生から教えられましたし、坂倉研究所の西沢文隆さんや先輩からは建築の本質と建築を造る心構えを教えられました。勉強をする環境がいかに大切であるか身をもって経験いたしました。その後坂倉建築研究所の仲間と共同で事務所を造り、1984年に私の独立した組織として、アーキブレーン建築研究所を設立し現在に至っております。

今回の受賞は私の今までの設計活動で大きな節目になったことは確かです。天才的な人は別にして、誰でも建築家としての能力にそんなに大きな差はないと思います。自分の信じる考えをこつこつと真面目に持続することが大切であることを実感いたしました。建築家はオーケストラの指揮者にたとえられますが、それは建築を造る過程が音楽の楽譜に相当する設計図を基に色々なパートの人々の協力と調整の上になりたっているからだと思います。

これは私の持論ですが建築家の仕事は、スポーツで言えばマラソンの競技に似ていると思います。建築家としての仕事はその人の人生そのものですし、各々の建物の設計においても走る距離は長いし、一人のゲームです。しかし走っている最中でも、自分の位置を、その時のコンディションに合わせて、常に相手や周囲



を見ながら計算していかなくてはなりません。トップグループで走っていても、すこしペースが落ちればすぐにグループから離されてしまいますし、第2、第3グループで走っていても辛抱してがんばってついていきますと、トップグループに出ることも可能です。マラソンを走る人は、競技をする時点で自分の能力がわかっていて、それでいて走るわけです。それは自分の能力の限界への挑戦だからだと思います。建築家も建物を設計している時に自分の能力は解っていて仕事をしているのですが、その状況に甘んじてはいけなと思います。長い距離を走っていますと色々なことが起こります。ただ自分を信じて走りながら周囲の状況とその時のコンディション等を判断して勝負にでる、それには当然日頃の練習の裏付けがあつてのことです。今、建築家を志している人達に言いたいことは、設計者としてその時はつまらないと思えるような仕事でも、力いっぱい頑張っていると、知識だけでなく知恵の力も加わり、その努力が報いられると思います。今日の1が明日には1+1になり、相乗効果をおこします。そして気がついた時には、大きな差となって表れます。世の中が情報にあふれ、いつでもなんでも知ることが出来ると思っている人が増えていますが、基本的な勉強が身につけていなければそれらの情報を適格に判断することも出来ません。建築を造る過程では、苦労や難しいこともあります。人が住み、使う空間を創ることは本当に素晴らしいことです。一人でも多くの人達がその喜びを享受出来るようがんばってもらいたいと思っています。

最後になりましたが、今回の受賞では理工学部の近江栄先生や日大の先輩で東京急行電鉄の役員をなさっている柴山繁さんに大へんお世話になりました。改めて校友のありがたさを知りました。しかし、計画系のOBがまだまだ少ないのが残念です。若い人達を含めてお互いに刺激しあう機会を設けて美しい建物を造り、そして活躍する場を広げて行く必要があります。

(建築学科10回卒 (株)アーキブレーン建築研究所)



動く欧州教育の視察

佐藤 満 夫

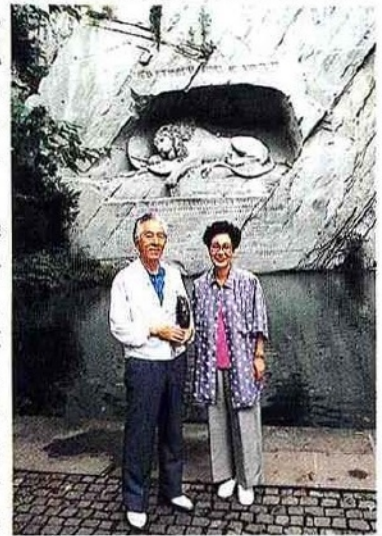
この度、1993年度日本大学教職員欧州教育文化事情視察団の一員として、去る7月17日から8月12日までの27日間、北欧スウェーデンを起点とするヨーロッパ9カ国を訪問する機会を得た。目的は、ヨーロッパ各国の大学教育制度と、その基礎となる文化、歴史、政治経済の総合的認識を深めるためである。

私は15年前、工学部主催の欧州研修旅行に参加したことがあるが、今回15年ぶりの先進国ヨーロッパに、どのような動きと変化があるのか、少なからず興味のある旅でした。今、ヨーロッパでは、陸続きの国境越えで、以前のようなバスや列車内での厳しい検問や検問も無く、旅行者は、らくに国境越えができ、さらに域内では、どこの国のモノでも、出国時に免税の手続きができる制度になっていた。このようにEC域内の国境規制（Frontier Control）を全面的に廃止の方向に進んでいるようである。ただし非合法商（麻薬）或は、テロに対する国家保護規制の厳しさは例外である。このように今ヨーロッパは、ヨーロッパ合衆国の建設を謳ったEC12カ国のマーストリヒト条約（欧州連合条約）に従って、域内の国境なき社会の実現にスタートしたようである。この条約の中に「ヨーロッパ高等教育改革」が盛り込まれていて、これが吾々関係者の関心ごとでもあった。これによると、ECの主要な教育関連計画は、まず高等教育の領域における教員・学生および研究者の移動の促進がECレベルで論じられ、EC域内大学に学ぶ者は、自由に他国の大学に移動できる計画である。大学および企業のスタッフを対象として、大学企業間訓練協力関係のネットワーク・システムを構築し、大学と産業界の国境を越えた人的交流の計画である。また、ヨーロッパ青少年計画（別名、イエス・フォア・ヨーロッパ）、教育情報ネットワーク計画等、広大な計画が12項目となって打ち出されている。ヨーロッパの各大学は、殆どが国立か州立の大学で、学費は原則として無料であるから、上記計画によると、他国の学生も同じ条件で取り扱われるのである。吾々が訪問したEC域内の大学は、ケンブリッジ大学、ローマ大学、ハイデルブルク大学、パリ大学であったが、いずれの大学も、現時点では具体的な促進はみられないものの、これらの大学も近い将来この教育改革の計画に従って、実施されることは間違いないであろう。また、すでに実施されている大学もあるかも知れない。吾々が訪問した各国の大学は、いずれもヨーロッパ最古の伝統を誇る古典的な大学である。権威あるこれらの大学が、このEC計画にどの様に対応していくのか、注視するところである。27日間

でヨーロッパ9カ国を旅し、多様な民族の集合体として発展するヨーロッパ各国の現状と、文化・歴史・政治経済、さらにキリスト教の多面にわたる影響など、改めて認識させられた。省みて我が国が抱えている大学改革をいかに推進したらよいか、多くの示唆と成果が得られた視察旅行であった。

掲載した写真は、スイスの中部観光都市ルツェルン市の一つのモニュメントの前の写真である。ルツェルン市は、山と湖に囲まれた、スイスでも本当のスイスらしい美しい町といわれている。町の一面に氷河公園があり、公園入口の自然石の岸壁に彫られた「瀕死のライオン」像（人物を見ないでバックのライオン像を見てほしい）、大きさは大凡5メートルはあると思った。これは、世界でも有名な記念碑の一つといわれ、ライオンの胴体に突き刺さった槍先、苦しそうに横たわるライオンが、あまりにもリアルで見る者に感動を与える彫刻である。このライオン像を、マーク・トウェインは、「この世で最も悲惨で心を打たれる岩塊」と記しています。

1792年フランス革命の際、戦場でのスイス兵の英雄的行為を記念して彫られたものである。もう一件印象深かったのは同じルツェルン市の中央部を流れる、ロイス川に架設された木造の屋根付橋「カペル橋」です。観光都市ルツェルンを象徴する美しいこの橋は、1333年に築造されたヨーロッパ最古のといわれる屋根付橋で、全長200メートル、歩行者専用の橋である。橋の欄干は花で飾られ、内側の歩廊には、歴史絵巻の描かれた絵が飾られていた。私共が、この橋を渡りながら、市内を散策したのは8月7日頃でした。日本に帰国後の8月19日の新聞・テレビで、「18日未明の火災により、カペル橋の9割が焼失した。」と報道された。660年以上の歴史ある文化財カペル橋が、一夜にして灰と化したのは、原因はともあれ、誠に惜しまれてならない。早期の復元を期待して、吾々視察団の別名を「カペル会」と命名した。（建築学科6回卒 日本大学工学部）



“世界の中の日本人”

八木 宏 純

この原稿は、私が青春の一時期を過ごした母校の後輩たちにも読んでいただけるとのこと。まだまだ未熟な私であるが、これからを担う若者たちと夢を共有できたらと思い、今回、筆を取らせて戴いた。

☆ ☆ ☆

昨年の10月3日、マンハッタンのエーストヴィレッジで「日本のお祭り」が開催された。1990年に始まったこのイベントも、これでようやく4回目。我が日本では“国際化”が流行文句のように謳われながら、肝心の本質は見失われているのが現状だ。私は、自分の目標のひとつである“ニューヨークに日本人街を”の実現を第一歩として、祭りを開催した。これが、“世界の中の日本人”というテーマについて考え、本当の国際化を進めるための何らかの手掛かりになれば嬉しいと思っている。

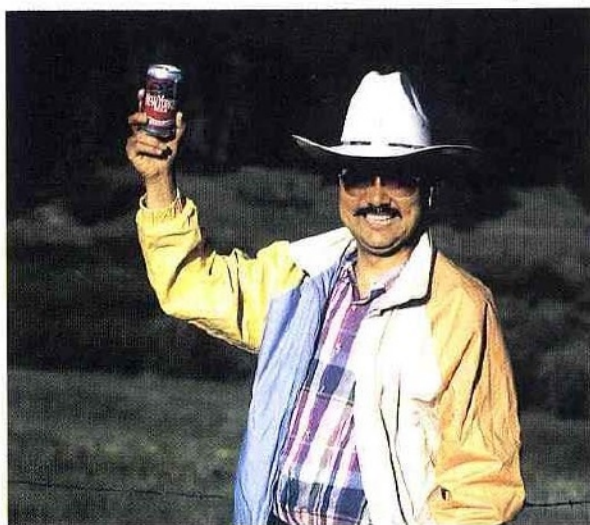
ところで、今私は自社ブランドの輸入ワイン『ニューヨーカー』の製造・販売に従事している。

これは、日本にいる私と、ニューヨークの弟・秀次、その友人である日下部氏が共同で設立した会社「エンパイア・ステート・ワイン」の一大プロジェクトだ。“日本人の口に合うワインをニューヨークで生産しよう”ちょっと聞いただけでは、その意図を掴みかねる人もいるだろうが、日米貿易摩擦は今や最優先されるべき重大課題。私は取ってニューヨークに会社を構え、アメリカ人を雇用し、そこで日本人好みのワインを造ることで、微力ながらこの問題に貢献したいと考えたのだ。そのメリットは何だろう？

まず、まだ一般に知られていない文化の紹介だ。日本でアメリカ産ワインといえば、カリフォルニア・ワインが有名である。しかし、ニューヨークのロングアイランドなどでもワインは醸造されており、その歴史はニューヨークの方が古い。恵まれた土壌・水・気候。好条件に育てられたブドウだけから、香りの良い、良質のワインは出来るのだ。これを日本に紹介できるという事がひとつ。

次に、前述した経済摩擦への貢献があげられる。アメリカ人を雇用し、アメリカでワインを醸造。そしてそれを購入するユーザーは日本人に絞るのだ。これによって、労働機会の提供と日本をターゲットにした貿易の両方のメリットが得られる。この努力はアメリカ大使館からも認められ、1991年、同大使館農産物貿易事務所から感謝状を頂いた。

また、私は自分の人生観を製品の中に盛り込みたかった。食の楽しみこそ、人生の最高のものである。日本人がアメリカという異国の地で購入するワイン。それが完全なアメリカ製でありながら、日本人の郷愁に触れることのできるものだったら・・・。



私は半年がかりで何十種類もの試作品を作り、それを日本人モニターに試してもらった。そして、最終的に発売されたのが『ニューヨーカー』（白・赤・ロゼ）の3種類である。前にも書いた通り、本当の国際化とは、遊びを兼ねた観光旅行のことではない。かつて、移民たちは母国を離れ、見知らぬ土地で懸命に生きていったのだ。異国で日本人としての自分を再発見する、そんなコンセプトもワインに取り入れてみたかった。

1988年の会社設立以来、さまざまな紆余曲折を経て、現在『ニューヨーカー』はアメリカ国内はもちろん日本でも購入していただけるようになった。1992年からは『ニューヨーカービール』を新たに登場させ、事業は今、やっと航海に出たばかりだ。

私は、常に自分自身をirog型の人間として鍛えていきたい。国際人としての自分、事業家としての自分はまだまだこれからである。“世界を股にかけるデッカイ仕事をしたい”が子供の頃からの夢。昭和44年、それを実現させるために、まず弟を渡米させた。私が日本で働いて資金を作り、彼もまた見知らぬ土地でアルバイトをしながら土台を固めていった。片親の、とても裕福とはいえない家庭で育った私たちには、それ以外に方法がなかったのである。あれからもう25年が経った。とてもそれほど時間が経過したとは思えないが・・・夢とは意識して、しかし、知らぬ間に少しずつにじり寄っていくものなのだろう。

後輩の皆さんにお伝えしておきたい。アメリカン・ドリームはまだ健在である。自分を閉じ込めず、広い視野で活躍してほしい。そして、いつか何処かでお会いできたら、“世界の中の日本人”として互いに協力しあいいたいものである。

(工業化学科14回卒 アケアン(株)代表取締役)

新入社員＝無我夢中

青 木 健 一



会社に入社して、あっという間に1年近くが過ぎてしまいました。その間、生活リズムの変化と仕事の流れについて行くのがやっとという感じでした。

私が勤務している(株)ユアテックは、宮城県仙台市に本社を

置き、東北6県と新潟、関東、大阪の一部で営業活動を行う、配電・送電・内線・設備・土木・建築工事の総合設備会社です。私が所属している電力本部土木部建築課では、東北電力の変電所の新築及び増・改築や点検、修繕、他に一般工事も行っています。当社は受注額の半分近くが東北電力関係の工事で占められていますが、当部門ではその割合が8割～9割まで上昇します。つまり、電気とは切っても切れない関係にあります。新入社員教育でも、事務系、技術系関係なく、基本的な電気工事の講義や配線の実習を行いました。これは、事務職に就く人達にも、会社の行っている事業内容を理解してもらうためです。他にも社会人としての基本的なマナーや、部門ごとの研修も行われました。

部門の研修では、東北電力の発電所やダム、又、それらの工事現場などへ見学に行きました。宮城県の女川にある女川原子力発電所に行った時は、すでに運転されている原子炉があるため、警備が厳重でした。発電所の関係者は一人一人カードキーを持っており、場内に入る時も、各制御室に入る時もカードと暗証番号を押さないと入れない様になっていました。又、近くには見学者のための施設があり、原子炉の模型やPR用の映画を上映したりしており、原子力発電の必要性や安全性をPRしていました。

その様な感じで約4ヵ月は研修を受けましたが、その後担当ごとに業務につきました。私も無線中継所の局舎の基本設計や基礎部の構造設計などを、上司や先輩方に指導を受けながら行いました。特に構造設計は手強く、今まで見たこともない厚い本を何冊も引っぱり出し、わからないところは何度も先輩に聞いてやりましたが、何度もやり直しとなり、やっと計算ができ上がり、今度は図面を完成させようと思ったら、配筋ミスをしたりと、この時は学生時代の勉強不足を痛

感しました。しかし、やり遂げた後にはまたやってみようと思うようになりました。

10月半ばまでは、このような仕事をして本社にいたのですが、課長に「新潟で事務所の新築工事があるので行ってくれ」と言われました。はっきり言って突然のことだったので、とまどいましたが、当社ではめずらしい一般の事務所新築工事なので、よし、頑張ろうと思いました。施主は当社の協力会社、施工は当社が元請で下請に福田組が入っています。私は初めての現場なので、福田組の所長さんにいろいろ教えていただいているのですが、工事の流れの速さについてゆけず、迷惑のかけっぱなしです。又、本社で勤務していた時とはがらりと変わって、毎日毎日残業です。肉体的に大変ですけど、内容は充実しています。昼間は現場で工事の進み具合を見たり、職人さん達に指示をしたりして、夕方からは施工図を描きます。私は図面を描くのが遅くて、よく業者の方からつかれます。今後は約束の日に完全に仕上げられるように努力したいと思います。

また、資格取得のために勉強もしなければなりません。当面の目標は二級建築士と二級施工管理技士の取得です。将来的にはやはり一級建築士を取得したいと思っています。やはり、仕事をする上で、資格を持っていると施主と一緒に仕事をする人達から信頼されますし、給料も違ってきますし、何とか早く取得したいです。

休日とはいうと、私は入社してすぐ買った車でドライブへよく行きます。新潟は海や川が近くにあるので、天気の良い日は最高です。また、市内はりっぱなバイパスが通っているの、走るのが楽しいです。こんなふうには走っていると、3年先まであるローンのことなど忘れてしまいます。

私は就職をしてこのような仕事をしておりますが、これから就職される皆さんは、自分が何をしたいのかよく考え、次に、この会社は自分のやりたいことができるのかよく検討して決めるべきであると思います。不景気の今だからこそ、その必要性が高いと思います。時間はまだまだあります。充実した学生生活を送り、立派な社会人になれるよう頑張ってください。

(建築学科第41回卒 (株)ユアテック)

同窓会・クラス会・支部総会

土木工学科第13回卒業「アカシヤ会」

渡 辺 一 也

平成5年11月12日（金）、土木工学科昭和39年度卒業同級会「アカシヤ会」を日本大学郡山研修会館で盛大に開催しました。

恩師杉内祥泰先生をお招きし、最近の学生気質や工学部の様子を詳細にお伺いし、懐かしい学生時代を思い浮かべて楽しい一夜を過ごしました。

会の初めに、我々の同期（140名）中、すでに7名の方が亡くなっていますので、1分間の黙祷を捧げ、物故者の御冥福をお祈りしました。

出席者（33名）は南は大阪市、北は北海道余市町まで遠方からの参加がありました。卒業以来28年振りという仲間がおり、恩師杉内先生を囲み、夜遅くまで懇親をはかりました。さらに、二次会に全員で駅前の陣屋に出掛け、学生時代の郡山の面影を求めました。



また、翌日、雨の中、「熱海カントリークラブ」にて、有志15名でゴルフコンペを開きました。競技方法は、18ホール、新ペリアで行い、塩田勝美君（郡山市水道局）が優勝しました。

本会を開催する切っ掛けは、福島空港が今年（平成5年）3月に開港したことにありました。母校でクラス会を開けば、遠くの仲間が集まり易くなったであろうということです。また、このような全国規模でのクラス会を3年毎に開くことを会の決定事項とし、さらに参加者の増加をよびかけることにしました。

（土木工学科第13回卒 福島県土木部）

第3回アメリカンフットボール部・OB会

船 山 雅 弘

平成5年11月28日、郡山ビューホテル・アネックスにおいて3年ぶりのOB会を開催いたしました。当日は師走間近、小雨が降ったり止んだりの小寒い日では

ありましたが、現役42名の熱烈な歓迎を受け、顧問の柳沼力夫先生をはじめ第二代から第二十代のOB総勢27名の出席で、華やかに開催されました。初代が昭和48年に卒業して以来、早や20年の月日が流れており、新ためてその歴史に想いを深めました。

我が、アメリカンフットボール部は、今をさかのぼること22年前、四家克洋氏（機械22回卒）を初代主将とする先輩たち3～4名で発足した愛好会で、当時はこの東北の地にアメリカンフットボールというスポーツはあまり知られておらず、とにかく「このスポーツが好きだ」という想いが、我々後輩に引き継がれて現在があると思います。その歴史の想いを第二代主将高橋良二氏（建築24回卒）の挨拶をはじめとし、各代の主将の挨拶を聞くにつれ、それぞれの時代を感じつつ酒を酌み交わしながら、遠い昔を懐かしんでおりました。

今年は例年になく不本意な成績に終わってしまい、残念そうに報告をしてくれた現役諸君を、先輩としてアドバイスを交えながら、励ます光景があらこちらで見られ、その話を直立不動の姿勢で聞いている現役諸君の姿を見ると、当時の記憶が蘇り、不一杯、酒の量が増えてしまいました。

しかし、このOB会に出席した方々の数が27名とは甚だ寂しく、150名を越えるであろうOB諸氏が、一同に会する事は無理とは思いますが、この機会にOB会名簿を充実させたいと考え、近々OBの中から事務局を設けて、活動報告や近況報告など、積極的にお知らせしたいと考えています。

最後になりますが、このOB会が、三年後に開催される予定になっております。諸先輩方も積極的な参加をいただき、より盛大にOB会が開催されますことを希い、今回参加できなかったOB諸氏をはじめ、校友会の方々に謹んでご報告いたします。

（土木工学科25回卒 船山建設㈱）



第2回「桜機会」活動について

益 子 慎 治

日本大学工学部機械工学科卒業生の県北地区在住で、親睦を目的とした集い「桜機会」を平成3年度に結成し、年に1度親睦を深めております。

なお、平成4年度の開催は、1月に開かれ、菅野教授を囲み日大の学生時代を思い出し楽しい時間を過ごしました。

平成5年度は、11月下旬に開催を予定していますので、多数の出席を期待しております。

また、前回の写真が既に出来ていたわけですが、事務局多忙のため大変遅れ誠に申し訳ありませんでしたが、ここに送付致します。

(機械工学科第23回卒 福島県商工労働部

職業能力開発課)



となり、楽しい再会を約束し郡山を後にしました。

(工業化学科4回卒) (朝日ラバー)

日本大学工学部OB 桜機会



第10回後藤同研会に参加して

伊 東 巖

工学部教授後藤尚先生の研究室出身者で構成される後藤同研会の総会が去る、11月6日郡山ビューホテルアネックスで開催されました。

二年毎の会合は回を重ね、今回で第10回を数えることとなりました。今回は第10回の記念すべき会合、第4回の卒業生から第41回の卒業の方まで、実に37年の間に卒業された方々38名が参加されました。会合は昨今話題から学生時代の様々な思い出まで、なごやかな、そして本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。また今回、第10回の記念すべき総会ということで、校友会長の半沢忠様に参加いただき、本当に印象に残る楽しいお話をうかがうことができました。

後藤教授の研究室出身者はすでに400名にならんとしております。回を重ねるごとに盛大にかつ充実した総会になってきており、後藤教授を慕い全国各地から集まる方々が多くなるにつれ、改めて後藤教授のすばらしさを感じさせられました。次回第11回は東京開催

第43回北桜祭並びに合気道部OB会に参加して

合気道部第7代 堀 尾 泰 弘

平成5年10月23日、第43回北桜祭(演武会)が、キャンパス内第1ステージで演じられ、引続き午後6時より郡山市内天狗会館でOB会が開催されました。

前回、母校を訪問したのは、合気道部創部30周年記念演武大会(平成3年6月29日)の際で、有川師範、半沢校友会会長をはじめ、北は北海道、南は九州から多勢の先輩、後輩の皆様が出席され盛大に開催されましたが、記憶に新しいところです。

いよいよ現在の稽古場である武道館へ。現役の諸君達の出迎えを受けましたが、礼儀作法は昔に劣らず立派で、この気風が引継がれる限り合気道部は益々発展するだろうとの感を強くしました。

道場中央の合気道開祖植芝盛平先生の写真を拝見する時、今一度自分自身を見つめ直さねばと思うのでありました。演武会は基本技を主体に、応用技も披露され30余年の時は経ても脈々と今に伝えられていることに、我々と現役の諸君達との間には、年齢こそ違え合気道という同じ道を歩き、お互いに相通じるものを共有していることは、実に無感量な思いがします。

演武会を無事に終え、OB会々場へ。参加者は半沢校友会会長、手塚公敏OB会長(土木16回卒)をはじめ、OB16名、現役23名の出席を得、盛大に開催されました。この時ばかりは、OB全員が現役時代にもどり、その当時の思い出話を花を咲かせ、時の経つのも忘れ楽しい一時を過ごしました。この席で、松山忠壮先輩(土木14回卒)より現役の諸君達に贈られた言葉の中に、「諸君が社会人になった時、合気道を通じて学んだ精神そして共に汗を流した仲間同志の絆の大切さを初めて思い感じる時が必ず来るでしょう。その時諸君は、合気道に学んだことに感謝するでしょう。」私もこの年齢になり、先輩の言葉に込められた気持ち

を大いに感じています。

会は和気あいの楽しい雰囲気の中で進み、最後に参加者全員でスクラムを組み校歌を歌い、又の再会を誓い合って閉会となりました。



今回諸事情で欠席された方も沢山おいでになる様に聞いておりますが、次回はぜひ参加されることを希望しています。合気道部が将来にむけて益々発展する様にOBの皆様の支援を頂けますことを、この紙上をお借りしてお願い致します。

最後になりますが、現在熊本在住の臼杵健一先輩(土木16回卒)が発起人となられ九州地区のOB会を設立される様に聞いています。それでは全国の合気道部の皆様の御活躍を願いペンを置きます。

(土木工学科17回卒 鉄建建設㈱)

(3頁総会報告続き)

議事は、村田事業部長(土12回)より、報告第1号平成4年度会務報告が行なわれ、了承された。次いで伊藤経理部長(電16回)より、承認第1号、第2号、すなわち、平成4年度一般会計収支決算ならびに特別会計収支決算について報告がなされ、おってこれらの収支決算について、太田会計監査(土3回)より運用適正の報告をもって承認された。

つづいて、議案第1号平成5年度の事業計画について同第2号一般会計収支予算について、同第3号特別会計収支予算について、一括提案があり、審議の結果承認された。

続いて、議案第4号、役員の選出は、各科より1名ずつと校友会執行部から2名の計7名の構成による役員選考委員会を設けて選出することにした。この結果、後藤選考委員長(化2回)より別表のとりの報告があり承認された。

承認された役員は次の通りである。

会 長	半 沢 忠 (化6回卒)
副 会 長	佐 藤 吉 新 (土6回卒)
〃	久 野 清 (建22回卒)
事務局長	橋 本 寛 (建10回卒)
理 事 (事業担当)	村 田 吉 晴 (土12回卒)
〃 (経理担当)	伊 藤 義 人 (電16回卒)

理 事

〃	加 藤 木 研 (電12回卒)
〃	三 浦 昌 雄 (土14回卒)
〃	渡 澤 正 典 (建14回卒)
〃	手 塚 公 敏 (土16回卒)
〃	中 野 伍 朗 (化16回卒)
〃	野 尻 大五郎 (化16回卒)
〃	曾 部 忠 義 (電20回卒)
〃	杉 崎 一 馬 (土26回卒)
会計監査	太 田 雄八郎 (土3回卒)
〃	古 橋 栄 吉 (建6回卒)
〃	石 井 和 樹 (土13回卒)

以上会長1名、副会長2名、事務局長1名、理事10名および会計監査3名の就任が承認され、新体制で出発することとなった。このうち三浦、手塚、中野、杉崎の各氏は立候補により承認された。

その他、半沢会長より本会則は昭和43年施行で現状にそぐわない点が多いので「会則の規則検討委員会」を設けてその改定案を次期総会で審議したい旨提案され了承された。再び佐藤副会長より閉会の辞があり盛会裡に終了した。

その後会場を改めて、懇親会を開いた。来賓の方々、日本大学本部からは総長代理として瀬在幸安教授はじめ3名の方、工学部からは国分学部長ほか教員14名、職員5名、工学部父母の会から1名とたくさんお見えになられ、出席校友との語らいには感銘深いものがありました。最後に意気軒昂なところで、校歌を合唱し、再会を約して無事終了となった。

北海道支部

支 部 長 松山忠壮(土14回) 東急建設㈱
事務局長 松久房夫(土14回) 札幌市下水道局

東京支部

支 部 長 古村和夫(土3回) 古村建設㈱

東海支部

支 部 長 平野 卓(土3回)
東京エンジニアリング㈱名古屋支社
事務局長 河野 叶(土6回) 秋芳技研㈱

九州支部

支 部 長 湯村 筑後(建10回) 福岡県建築住宅センター
事務局長 今福 英充(建16回) ㈱イマフク

四国支部

支 部 長 北岡 保之(化14回) 高松市役所
事務局長 牧野 隆次(建22回) 牧野建築設計事務所

平成5年度各支部の総会

○東海支部総会

平成5年7月9日(金)
名古屋市 名鉄ニューグランドホテル
参加会員 約60名
本部から 佐藤吉新副会長
来賓 小林 力教授ら11名

○四国支部総会

平成5年7月10日(土)
高松市 わたや旅館
参加会員 21名
本部から 半沢会長
来賓 小林 力教授ら7名

[写真は四国支部総会]

○九州支部総会

平成5年7月9日(金)
福岡市 ガーデンパレス
参加会員 31名
本部から 半沢会長
来賓 森 芳信教授ら6名

○北海道支部総会

平成5年7月10日(土)
札幌市 札幌アートプラザホテル
参加会員 約50名
本部から 村田吉晴事業部長
来賓 藤田龍之助教授



株式会社 郡山地質調査事務所

卒業以来17年が経過致しました。
実業家としての独立は10年ほど前となり、
まだまだ未熟ものですが、社会奉仕の一貫
として努力したいと常に願っています。
また、開発と環境保全を考える、
大きな意味での反意語ではありますが、世界的
規模での技術革新が自然を破壊していく
現実を見逃すことなく、自然との調和を大
事にしたいと思っています。

概要

事業許可 土木工事業 さく井工事業
(般-4)第18658号
事業目的 1.土質・地質に関する調査・試験・
計測及び解析
2.地下水調査と開発
3.土木建築設計と開発
4.上記各号に関連する測量と
その他の業務



代表取締役

杉崎 一馬

(土木工学科26回卒)

設立年月日 昭和60年10月2日
資本金 12,000,000円
従業員数 14人
本社所在地 福島県郡山市赤木町10番3号
TEL(0249)22-5411 FAX22-5401
営業所 福島県福島市仲間町4番6号
L.M.壺番館804
TEL(0245)21-6722 FAX21-6734

- 安司 靖博(土木工学科30回卒)
- 外岡 亮(土木工学科34回卒)

- 湯ヶ谷 真(電気工学科40回卒)
- 鈴木 勝好(機械工学科41回卒)

校 友 短 信

土木工学科

◇伊藤 勇介（1回卒、日東建設㈱東北支店）

宮城県庁を定年退職し、現在日東建設㈱東北支店に勤務しております。宜しく。

（H.5.9.6受）

◇黒沢 毅（13回卒、三山測量設計㈱）

今年の7月31日に、磐梯熱海に泊まり翌日大学を視察してきました。大変立派なキャンパスとなっており感激いたしました。学生当時パンツードで阿武隈川を渡って学校にいった頃の情景は、今はとても思い起こすことはできませんでした。立派な武道館が建てられ空手部歴代の幹部のなかに自分の名札を見つけたときは、感無量でした。

（H.5.12.3受）

◇正立 克英（13回卒、横浜市役所西土木事務所）

みなとみらい21（通称MM21）地区は、当事務所で管轄していますが、ランドマークタワー、横浜銀行ビル、三菱重工ビル、国立国際会議場など着々と整備が進められています。金沢八景島（シーパラダイス）なども相当の観光客を集めています。

（H.5.12.3受）

◇戸田 泰明（20回卒、山梨県立峡南高等学校）

先日、郡山で開催されましたインターハイに大会役員（フィギュアスケートの副委員長）として、久しぶりに郡山を尋ねました。学生時代の下宿屋さんに、お会いでき、なつかしい話もできました。又、来年国体が開かれますので参加したいと思っています。現在勤務している高校からも、毎年、生徒が母校にお世話になっています。

（H.6.1.26受）

◇広田 昭重（20回卒、東京都庁下水道局）

下水道局で、元気にやっております。校友会からの便りは、学生時代がとても懐かしく思い出されます。

（H.5.12.10受）

◇佐藤 直（21回卒、）

私は現在、入社以来21年目にして初めての単身赴任を北陸の地にしております。ここ数年続いてました民間工事も、現代病には勝てずついに関東を離れる運命となりました。また昨年秋から亡兄の為、過労死認定の申請を行っております。

（H.5.9.25受）

◇須貝 信亮（40回卒、上山市役所）

平成4年3月卒業して東京の建設物価調査会に就職したのですが、平成5年4月から上山市役所土木課に勤務しております。大学での勉強をいかし、種々免許

（校友会の事務局へのお便りや、連絡などから）
無断で掲載いたしました。ご了承ください。）

を取得したいと思います。今後ともなにかありましたらよろしく御指導の程お願い申し上げます。

（H.5.6.22受）

建築学科

◇池上喜久（1回卒）

思い出の木造兵舎跡の校舎が立派になってゆく様を時折新幹線の車窓から見るだけでしたが今回母校を訪ね目の当りに出来るのを楽しみにしています。

（H.5.9.10受）

◇岡田利一（12回卒、㈱拓建設事務所）

かねてより建築を進めてました当建築事務所が、このほど竣工となりました。これを機会に、より一層の努力をする所存です。今後ともご支援をよろしく。

（H.5.4.3受）

◇村西 健（16回卒、NOAH設計室）

毎回工学部卒業生へのお便り、ありがとうございます。自分も知人の名前を会報に見たときは、とても懐かしい思い出を抱き、皆どうしているのかとも思っています。

（H.5.3.26受）

◇田中 一夫（20回卒、㈱病院システム）

医学、福祉施設等に的をしぼった設計コンサルタント会社を設立しました。特に病院建築については、企画・調査・運営システム構築から施設設計・運営支援に至るトータルなメディカルコンサルティングを実施するものです。昨今、病院の経営危機がニュースなどで取り上げられますが社会的使命と、責任の重大さを自覚し事業にはげみたいと思っています。

（H.5.3.8受）

◇本田 哲夫（21回卒、㈱朝日工業所福島営業所）

20年間東北支店で施工を担当してきましたが、今年から母校が見える安積町に営業所を開設し赴任しましたので、よろしくお願い申し上げます。

（H.5.9.6受）

◇金子 修（24回卒、建築企画モノリス）

花見の季節になりましたが、景気の低迷が続く中、体質改善し市場の変化に対応しようと、試行錯誤しております。母校のますますの発展を、お祈り申し上げます。

（H.5.4.3受）

◇大沢 武志（30回卒、群馬県立桐生工業高校）

校友会事務局の皆様、大変お世話になりました。私、高等養護学校で6年間勤務後、今年4月から桐生工業高校勤務です。また、日大の建築設計競技等でぜひ参加させていただきたいと考えております。

（H.5.9.28受）

◇行場 義修 (30回卒, 北海道立帯広工業高校)

陽春の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。私、4月1日付で、9年間勤務した名寄工業高校から転勤しました。校友の皆様、今後ともよろしくお願い致します。

(H.5.5.6受)

◇東条 正道 (41回卒, 榊植木組東京支店)

私は今、研修で緊張した毎日を送っております。まだまだ肌寒い日が続きますが、お体にお気をつけて下さい。

(H.5.4.10受)

機械工学科

◇鈴木 平八 (1回卒, 矢嶋工業株)

訪ねる会、会社の行事と重複し出席出来ず残念です。私は還暦を過ぎてても現役で頑張っております。

母校並びに校友会の益々の御発展を御祈念申し上げます。

(H.5.9.30受)

◇小宮 良祐 (13回卒, 日立化成工業株)

この度米国より'93.9.30に帰国することに成りました。就きましては通信先住所を変更して頂きたく届出致しますので、宜しく願い申し上げます。

(H.5.9.20受)

◇二木 好文 (18回卒.)

X'masと新年のご挨拶を申し上げます。

EC統合時の期待効果は、経済不況とともに、その結果に対し疑問視もありますが、各国とも不況にある事は我社の販売の伸びから見ても実体の様であります。ノミ市にもここ1~2年はソ連やポーランドの人々の出店が多くなりました。ECの枠を越えての商流が出来つつある構造を感じております。学部の益々の御発展を願います。海外まで送付いただく校友会誌に感謝致します。

(H.5.12.10受)

◇中野 雄蔵 (19回卒, いすゞ自動車株)

晩夏の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。さて、私この度社命によりタイ国いすゞエンジン製造株赴任を命じられ、10月1日付にて3年間駐在することになりました。尚現時点ではBankokの住所は未定です。

(H.5.8.18受)

◇鳥山 繁雄 (21回卒, 青森県立むつ工業高校)

アマチュア無線の上級試験(2級)を受けようと願書を出しました。試験日が10月24日なので訪ねる会に出席出来ません。この次の機会があればと思います。

なお私のコールサインは、J17QNDです。

(H.5.9.9受)

◇金谷 勉 (21回卒, 榊丸山製作所)

誠に残念ですが翌週よりヨーロッパ出張(ドイツ・フランス・イタリア)を控えており訪ねる会には出席できません。仕事柄(農機メーカー)観光客の訪れないヨーロッパの他、中近東、アフリカ、インドなどで製品デモやフィールドテスト・新製品開発の打合せ等もやってまいりました。同級の皆様並びに先生方によりしくお伝え下さい。

(H.5.9.27受)

◇黒川 和男 (21回卒, SMC株)

先日の訪ねる会に出席し20年ぶり(郡山)とあって、何とも感無量という気持ちでいっぱいでした。今後も益々母校の発展を期待しております。有難うございました。

(H.5.11.2受)

◇黒木 洋一 (21回卒, 株黒木商会)

オール日大の校友会宮崎県支部事務局員と工科校友会の幹事をしております。母校から遠いためこのような催事(訪ねる会)がないとなかなか行けません。当日を楽しみにしております。

(H.5.9.20受)

電気工学科

◇星雄太郎 (1回卒, 星コンサルタント)

訪ねる会のご案内有難うございます。残念ですが欠席させていただきます。現在私は技術事務所の仕事をしております。皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げます。

(H.5.9.9受)

◇星野 隆 (16回卒, 株村田製作所)

校友会報をいつも楽しみに拝見しております。私が卒業したのが昭和43年3月で、在学中の母校と比べ現在の発展・充実ぶりには目を見張るばかりです。又、このような母校を持ったことを誇りに思っています。私も長いこと販売に携わってきましたが、昨春より営業部門の企画に従事し、主たる業務として新しく立上がってくる市場の技術的な面を主体としたマーケティング活動をしています。技術的変化が激しく対応する部品の変化を適格に捉え、フィードバックを計り、タイムリーな商品開発に結びつけるなど商品経営で重要な側面を持っています。やりがいのある仕事で毎日充実した日を送っています。残念なのは本社京都の為か、後輩の入社が少ないことです。

(H.5.5.8受)

◇大野 哲彦 (24回卒, サンケン電気株)

平成2年に現住所に転居しました。転居通知をしなればと思いつつ、ついこの頃になってしまいました。今年はついに会報が来ないので転居通知を出そうとしていたところでした。お手数をおかけして申し訳ありません。ありがとうございました。

(H.5.6.10受)

◇**村松 勝男** (30回卒、ミネベアエレクトロニクス(株))
現在、固定ディスクドライブ (HDD) 用の磁気ヘッドの製造に携わっています。日本での製造試作、海外 (タイ) のオペレーション立ち上げと、忙しい毎日を送っています。

(H.5.11.24受)

◇**岡本 敏嗣** (38回卒、(株)富士通東北北海道システムエンジニアリング)
校友会報をいつも楽しく読ませていただいております。現在は、SEとして北海道、関東、中部地区を飛び回っております。在学中は、諸先生方に大変お世話になり感謝しております。母校のますますの発展を期待いたします。

(H.5.5.24受)

工業化学科

◇**杉原 潤** (1回卒、桑名商事(株))

過日「母校を訪ねる会」の折は大変御世話様になり有難うございました。また今回、記念写真を御送り戴き重ねて厚くお礼申し上げます。母校のキャンパスには昔日の海軍航空隊の面影はなく、その発展振りにはただ驚くばかりですが、それにつれて校友会の方々のお仕事も益々大変であろうと推察致します。私は現在、メッキ工場で公害防止をやりながら第2の人生を送っております。今後共、よろしく御願い申し上げます。皆様健康に御留意して御励み下さい。

(H.5.11.30受)

◇**篠崎 道夫** (2回卒、)

春たけなわの昨今益々御健勝のこととお慶び申し上げます。さて私は、去る5月クボタ環境サービス(株)を定年退社致しました。4年6か月間の勤務でした。大過なくすごせたのも一重に皆様方のご寛容と芳情のためものと心より深く感謝申し上げます。今後はまだ健康に恵まれていますので野山の散策をします。何卒今後とも一層のご厚*とご指導をたまわりますようお願いいたします。末筆ですが皆様のご健康とご多幸ご発展を祈念申し上げます。

(H.5.7.12受)

◇**角田 栄世** (21回卒、富士特殊紙業(株)筑波工場)

卒業後名古屋市民となり、食品・医薬品の包装材料を企画開発製造販売する富士特殊紙業(株)本社開発部に12年間勤務、関東進出先茨城県石岡市へ新設工場建設の計画、稼働の立ち上げに伴い昭和62年12月下旬転勤現在に至っております。最新工場が平成5年6月下旬完成し、軌道up中、来春には瀬戸市出身の後輩鈴木貴文君(工業化学科、平成6年3月卒業予定)が当社開発部へ入社予定。

(H.5.9.22受)

◇**平石 桂一** (25回卒、日本乾溜工業(株))

熊本より北九州に転勤になりました。6月に、山形

出張の帰り大学にたちよりましたら、管理棟が立派になっていましたのに、びっくりしました。

(H.5.9.27受)

◇**辻 啓之** (37回卒、綾羽(株)石部工場)

綾羽(株)はホテル事業、不動産事業、日曜大工センター、ゴルフ場、写真現像、人材派遣等の会社です。

現在私は電気部品を作る工場に配属です。

(H.5.4.15受)

◇**二木 孝佳** (38回卒、吉田工業(株)黒部事業部)

一代でYKKを世界のYKKにした吉田忠雄氏が7月3日、肺炎のため84才で永眠しました。94年末、YKKシンガポール社赴任予定です。

(H.5.7.22受)



高野 操 先生を 悼む

前事務局長・佐藤光正
高野操工学部助教授は、
平成5年7月18日、心肺不全のためご逝去されました。
享年61歳でした。

先生は、昭和33年に工学部に奉職されてから、36年の長きにわたり、研究と教育ならびに学部運営に尽力され、顕著な貢献をされました。また、校友会に関しては、昭和35年事務局長にご就任されて以来、同39年に副会長、41年に監査、59年以降参事などの役職を歴任されております。特に昭和54年から会員管理と会報発行については実務の中心になってスタッフをまとめ、事業を遂行されて参りました。日本大学工学部三十年史の編纂をご担当されたとき収集した資料の整理と保管はほとんど先生の手任に任せられ、校友会事務局の隣室で、事務を執っていた姿が今日も目に見えるようであります。

温厚で几帳面な先生のお人柄は、同僚の方々に、また校友の皆様にも、尊敬と信頼の心を抱かせずにはおきませんでした。まるで生字引きのように、学内外の今昔を知りつくし、日々散見する事象の関係を、先生流の明確な理念に基づき、極めて詳細に分析して、すべき事の是非を判断され、先輩としての見識を示されたことは、枚挙にいとまがありません。本当に大事な人を失いました。今後への期待が大きかったが故に、なお残念でなりません。

今はただただ、黄泉への道程の安らかならんことをご祈念申し上げますのみでございます。

また、ご遺族の皆様には、悲しみ負けることなく、早く立直られますよう衷心より祈っております。合掌
喪主 高野健治

◇学術研究報告会開催される

平成5年度の工学部学術研究報告会は、去る12月11日（土）に工学部に於て開催された。本年度は情報工学科からの発表と、日本大学理系各学部からの発表とが加わり発表件数は258件と、過去最多の研究発表が行なわれた。各部会の発表件数（数字）は下のとおり。

一般教育部会（26）・土木部会（46）・建築部会（57）・機械部会（55）・電気部会（33）・工業化学部会（28）・情報部会（13）

◇大学院工学研究科だより

平成4年度大学院設備拡充費

「光学活性天然有機化合物および関連化合物と構造決定に関する研究」菊池光子教授。日立超電導FT-NMR装置一式で、経費は約49,330,000円。

「コンピュータネットワーク構成と応用に関する研

究」山本登助教授。ローカリエリアワークシステム一式で、経費は約10,670,000円

◇国分工学部長再任

日本大学工学部は、平成5年5月27日、国分欽智工学部長の任期満了に伴う工学部長選挙で、同教授を再任した。平成5年7月17日より就任。前任中に情報工学科を増設するなど、学部発展の要としてご活躍なされております。

◇岩淵悟先生御逝去

一般教育（英語）の岩淵悟教授は、平成5年4月12日、病気のため逝去されました。享年56歳でした。岩淵先生は昭和47年4月1日から本学に勤務され、多くの業績を残されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

日本大学工学部校友会各位

平成6年3月1日

日本大学工学部校友会長 半 沢 忠

平成6年度通常総会通知

日本大学工学部校友会平成6年度通常総会を下記のとおり開催いたします。皆様には、ご多用中とは存じますが、先輩後輩お誘いあわせの上、多数ご出席ください。（なお、本年度の総会は5月になりました）

記

1. 日 時 平成6年5月14日（土）
午後2時より総会、同3時30分より懇親会
2. 場 所 日本大学郡山研修会館
所在地：郡山市愛宕町2-22
☎0249-23-4193
3. 総会・議題 (1) 平成4年度会務および決算報告
(2) 平成5年度事業計画および予算(案)審議

- (3) その他
4. そ の 他
(1) 総会終了後、引き続き同所において大学関係者を迎え懇親会を予定しています。
(2) 研修会館宿泊希望の方は、5日前までに母校庶務課に申し込んでください。
☎0249-44-1300代

〔事務局便り〕

◇日本大学本部評議員決る。日本大学は、民主的な運営をはかるため、それぞれの機能を備えた各種の会議ならびに委員会などが設置されている。日本大学本部にはこれらが集約されて大学運営の母体となっているこの中の一つに、学校法人日本大学評議員会があり大学運営の中核をつかさどっている。工学部校友会からは、校友評議員として、元会長の松山光克氏（土3）に委任しておりましたが、このたび、任期満了となり手塚公敏氏（土16）に委嘱した。任期は平成5年7月より3年の予定。

校友会報 第57号

発行所	日本大学工学部校友会 福島県郡山市田村町徳定字中河原1 郵便番号 963-11 電話番号 (0249)44-1327 振替口座番号 郡山5-1990
発行部数	38,500部
発行日	平成6年3月1日
発行者代表	会 長 半 沢 忠
編集者代表	事務局長 橋 本 寛